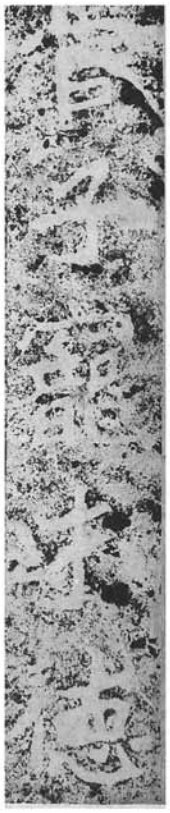
図版①『登百峰山詩刻石』（原寸大）

「落ち穂拾い記」㊹
『雲峰山全套』③

A呉譲之旧蔵初拓本　B書菀本　C松井如流旧蔵本

図版②

A



B

C

図版③

木鶏室金石拾遺第三集

図版④

白雲堂中解易老題字

図版⑤

登百峰山詩刻石

大型図冊の『雲峰山全套拓本集』は、関西の金石拓本研究会と制作するにあたり、同様な拓本を収録した書籍に、戦前の泰東書道院の『書道』(第五巻五号)、戦後の『書品』(60号)、中央公論美術出版社の書道芸術『智永・鄭道昭』等があった。底本の質では、これらと比較して決して劣るものではなく、本の大きさをA3版にし、鄭書の代表作や題字の優品を見開きで収録し、見応えのある拓本集にするように努めた。編輯時に旧拓本で収録出来なかったのが、『白雲堂中解易老刻石』と『登百峰山詩刻石』であった。前者は、訪中団として見学された友人が現地で購入された新拓を、後者は、戦前にコロタイプ版で影印された会員所蔵の資料を用いた。その後1983年ころから、これまで未出版の碑法帖等の優れた古典を木鶏室金石拾遺としてコロタイプ精印で個人で自費出版することを始めた。第一集が、『漢三老諱字忌日記・初拓本』、第二集が、『鍾繇(しょうよう)・賈刻本宣示表』、第三集(図版③)には、鄭道昭の隠れた名作『東堪石室銘』(今号の表紙「麗」字と6月号を参照)を取り上げ原寸で出版した。(以前に共同で刊行した鄭道昭『雲峰山全套拓本集』の補遺の意を含めて、)その際、先に所蔵していなかった『白雲堂解易老刻石』(図版④)『登百峰山詩刻石』(図版①と⑤)の二種もこの頃には、旧拓整本を入手していたので、『東堪石室銘』と同じように原寸で収録した。『登百峰山詩刻石』は、『鄭羲下碑』『論経書詩』などとは巌面の加工が異なり、『白駒谷題字』『中嶽遊槃題字』に近く、まるで趙之謙の楷書を彷彿とさせるような趣である。現在この原石は、北京の故宮博物院に所蔵されている。長い間に数多くの雲峰山全套の拓本を目にしてきたが、その中で旧くから注目されてきたのは、やはり『鄭羲下碑』であり、この精拓旧本として日本で有名なものが、松井如流先生旧蔵で清末の名家旧蔵の善本で、二玄社の叢刊本に使用されている(図版②C)。この種の精拓は珍しいが、94年のアメリカのオークションで香港の李氏群玉齊旧蔵本を入手した。日本では、戦前の『書菀』誌に紹介された拓調が重い沈樹鏞旧蔵拓本(図版②B)が有名であるが、摩崖刻石の石面がまだ洗われてない頃に、丁寧に淡拓で制作された名家旧蔵の「初拓本」と称される実に珍しい美事な『鄭羲下碑』が、近年の中国では出現している。これらは清末民国の金石家・姚華や呉譲之旧蔵本(図版②A)である。未洗本であるために、一部に字画の不鮮明な所があるが、鮮明な部分の字画は、大変に伸びやかで、先に言及した重墨拓の旧本とは全く趣を異にして大変魅力ある拓調を示している。

伊藤滋(書斎名・木鶏室)

書道芸術院
令和の群像（2023）

荒井柊雲

「偶然の魔術」
艸風創作手帳より

流行病から明けてきた令和5年・今まで低迷していたことが一気に流れ出し、自身としても翻弄されている。

考えれば、師・横堀艸風先生の墨色の美しさに魅せられて40年以上経ってしまった。

書は小学校の頃から高校入学まで書塾で習っていた。とはいえ、群馬県の進学校（男子校）でほぼ唯一芸術選択で書道がある前橋高校では書道選択をしなかった。もし書道を選択していたら教師は西林乗宣先生から代わって田村翠淵先生だったので、今頃は「かな作家」になっていたかもしれない。

時は「高度成長時代」。皆、理系を目指していた頃である。部活は「数学研究部」という大学受験には有効だったものの書道とは縁もゆかりもないものだった。

その後、高校を卒業して10年経って郷里に帰り、修士論文などの文字が乱雑になったことを思い書の教室を探した。そのとき母の茶道などの縁から横堀艸風先生の門下生となった。

横堀先生が官を得て上京し、大澤雅休先生の門下になった縁は「和歌」を習っていたからと聞いている。

漢字の臨書しか経験がないときに、初めて前衛書を書くことになった。それではと「手本ではない参考例」という混みいった文字らしきものをもらった。参考例にならない参考例は全く無視して紙に向かったとき、書き出すものが何もないという虚無感を味わうことになった。

前衛書というのは、書に関する経験値を凝縮して書き出す。

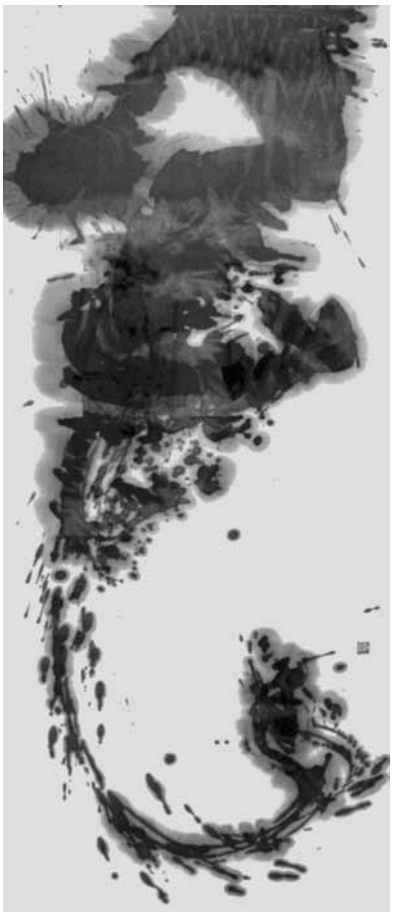
その作品の選択は初心者のうちは全く分からない。横堀先生に似た雰囲気の作品は全て選択から外された。

横堀先生は、臨書などの手本を書くときに「筆が躍る」と評判だった。前衛書は朝3時に精神統一して書くと言い、当然誰も見たことはない。

「偶然の魔術」・墨作りの試行錯誤から偶然上手くできてしまった墨。なぜか手に入ってしまった紙で、思い描いた作品ができた。

「偶然の魔術」は、作った墨と同様なものを二度と作ることはできなかった。紙も手に入らなかった。今「艸風創作手帳」を見直せば、墨作りも線種も作風も全く違ってしまっている。

「墨の魔術と偶然の魔術」の追求は今でも全く終わらない。そして年齢とともに価値観が変わる中、その偶然をどう生かすのか、まだまだ課題が尽きない。



第9回毎日書道群馬展（2022）題名「祭」　荒井柊雲書

書のひろば

理事長　下谷洋子

第74回毎日書道展会員賞

第74回毎日書道展は、6月末から7月初めにかけての入賞審査に続いて7月5日会員賞選考会が行われ、翌6日に文部科学大臣賞が決定されました。

・文部科学大臣賞
　松井玉箏氏（かな）
・会員賞（本院関係）
　京　絹子氏（かな）
　岡村恵窓氏（大字）
　小竹正高氏（近・詩）
　他23名

表彰式は7月23日午後1時より、ザプリンスパークタワー東京で、コロナ禍以前の形に戻り開催されました。

出席者は役員を含め2000人となり、大会場に漂う厳粛な空気の中、受賞者の緊張した晴れ姿はなつかしく感じました。表彰式後の祝賀懇親会は中止となりました。

その後、本院の出品者懇親会を、4年ぶりに芝パークホテルにて同日午後4時より開催しました。役員及び出席の入選入賞者総勢140人による懇親会は、なごやかに始まり、本院からは3名の会員賞にも恵まれたため、皆さん大いに話が弾んだ様子、久しぶりに他部門の方々との親交は芸術院ならではの光景でもありました。

東京展の後は、全国の会場の地方展が始まります。地方の本院役員・会員の先生方のご協力ご支援をお願いします。

毎日書道展表彰式

成田山書道美術館に香川峰雲先生作品の寄贈式

第75回記念展で行われた「香川峰雲遺作展示」の刻字作品と印材など50点あまりを寄贈するにあたり、7月19日成田山書道館にて寄贈式が行われました。

田中照広館長先生より、寄贈者香川倫子先生に感謝状が贈られ、代理でご出席された倫子先生の御子息保様ご夫妻が受け取られました。本院からは辻元大雲顧問、山口仙草理事と下谷、馨香会から三森慧香・野口加奈先生が出席し、高橋利郎先生、山﨑亮先生にも立ち会っていただき、無事終了しました。

寄贈式集合写真

小林琴水理事セントラルミュージアム銀座で個展開催

7月20日～23日、本院理事の小林琴水先生がセントラルミュージアム銀座にて―今やらねばいつできる―と題した個展を開催しました。大字を中心に22点余に他小品と、エネルギッシュで艶やかな大字の展開で、琴水ワールドを繰り広げました。間隔をゆったりとった陳列は、動きの激しさを緩和して落ち着いた雰囲気を醸し、初日には毎日書道会理事の仲川恭司先生をお招きしてのギャラリートークも開かれ、多くの観客で賑わいました。先生の益々のご健筆をお祈りします。

高野山展表彰式

第57回高野山競書大会の表彰式は、8月4日、総本山金剛峯寺・新別殿にて厳かに行われました。表彰式に先立ち、前日の3日、奥の院・書道協会物故者供養塔前にて運営委員を中心に高野山書道協会物故者追悼法会が行われました。

小林琴水先生の作品「感激」の前で

第46回夏期書道大学講座開講

全日本書道連盟主催の夏期大学講座は、8月4日から6日まで4年ぶりにサンシャインシティコンファレンスルームにて開催されました。感染予防対策を施しながらも、受講定員はコロナ禍以前に戻り、各講座とも待ちわびた受講生の熱気にあふれ、指導講師陣の奮闘で実りある講習会となりました。

現代詩文書基礎基本講座 (39)

小竹石雲

古典から現代詩文書への発展

③李嶋雑詠風のひらがなの表現方法

・文字を支える縦画は主に直線的にし、横画、斜画は曲線を用いた。そうして曲・直を融合させながら線には張りとスピード感をもたせた。

・線の強さを外に放出するような大きな動きで懐ろを豊かにして、余白に拡がりをもたせるように書いてみた。

・かな本来の簡素な造形美と李嶋詩のもつ強い線のマッチングに苦慮した。

・もう少し思い切った抑揚の変化があっても良かったように思った。

④李嶋雑詠風の現代詩文書

釈文…白く聳(そび)える雲の峰

・前向きにグイグイと攻めるエネルギーを感じ、挑発的な独創性を追っていたが、意識過剰を感じ、素直さと自然さに方向転換した。そのためやや物足りない作になった。

・振り子の運動のように、横画の振りは大らかに少々速めに書き、縦画の引き締めはしっかり食い込むように書いてみた。その中で「振り」から「締め」に入る「間(ま)」の取り方、時間性で作品のできが決まってくると思った。李嶋詩のテンポが現代詩文書にうまくマッチした気がした。

――基礎基本講座――

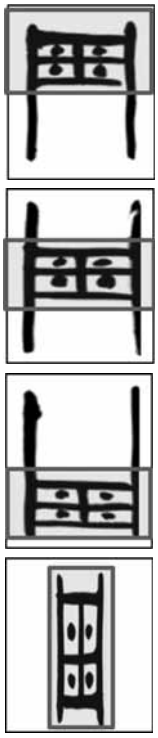
前衛書基礎基本講座 (15)

千葉蒼玄

〝周〟の篆書の造形を作品にしてみる。

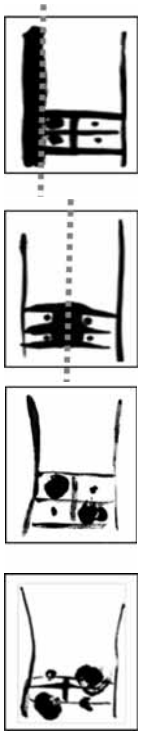
〈作例〉

全面に線が配置されているが、上・中・下・中心と線をまとめてみる。



(1)上部に　(2)中心部に　(3)下部に　(4)中央に

次に(3)の造形を基礎とし、濃淡、直曲、太細の要素を作品にとり入れる。



①左に重心　②中央に重心　③点に強弱を　④点をはみ出させる

〈作例〉は、④の造形に線のリズム（直曲・太細）を入れて仕上げた。〝周〟という音から、使った漢字でなく〝SYU〟と題名を付けることもある。

令和5年度 新審査会員作品

高橋 栄杏（前）・宮内 耕雲（漢）・中須 楽翠（漢）・高島 孝仙（前）

高橋 栄杏
（岩手）

「健」

この度は、審査会員にご推挙頂き有り難うございます。故、及川禮助先生、太田蓮紅先生に御指導を頂き、前衛書の世界を知りました。古典臨書での線の大切さは前衛書も同様です。墨の変化、墨量の調整、他に構成等、まだまだ未熟ですがこれからも探究したく思います。よろしくお願い致します。

（栄杏）

中須 楽翠
（大阪）

「無心」

この度は、審査会員にご推挙頂きありがとうございます。故恩地春洋先生、小林琴水先生、水野春翠先生のご指導をいただき、また春洋会の先生、先輩方とよき仲間のおかげと心から感謝申し上げます。これからも無心で、楽しく書の大切さに心新たに精進してまいりたいと思います。

（楽翠）

宮内 耕雲
（千葉）

「不爭而善勝」

この度は、審査会員にご推挙頂きありがとうございます。子供と始めた書道、恩師亡き後も書道を続けていました。そんな時、加瀬澄春先生のご指導を頂き早いもので20年。東総書道会の諸先輩の方々をはじめ仲間に感謝し、心新たに書の道に邁進して参ります。ご指導宜しくお願い致します。

（耕雲）

高島 孝仙
（富山）

「和」

この度は、審査会員にご推挙頂き、誠にありがとうございます。ひとえに故浜谷芳仙先生に続き津田和秋先生の熱心なご指導と、良き書友のおかげと感謝致します。書の奥深さを感じながら書の楽しさを大切に精進して参ります。

（孝仙）

令和5年度 新審査会員作品

遊佐 紅雅（前）・寺前 華扇（漢）・酒井 城園（漢）・鈴木 春江（前）

遊佐紅雅
（宮城）

「想」

この度は、審査会員にご推挙いただき誠にありがとうございます。ご指導いただきました太田蓮紅先生をはじめ書友の皆さまのお陰と心から感謝申し上げます。今後共ご指導よろしくお願い致します。

（紅雅）

酒井城園
（千葉）

「玉雪開花」

この度は審査会員にご推挙いただきありがとうございます。故種谷扇舟先生、萬城先生のご指導あってのことと感じております。また書友の皆様から日々刺激を受け今日までの支えになっています。

これを機にますます精進してまいりたいと思います。

（城園）

寺前華扇
（大阪）

「輝」

この度は審査会員にご推挙頂きありがとうございます。故小伏竹村先生、小伏小扇先生はじめ、諸先生方の温かいご指導と、よき仲間の支えに心より感謝申し上げます。今後さらに日々の研鑽を重ね、精進して参りたいと思います。

（華扇）

鈴木春江
（東京）

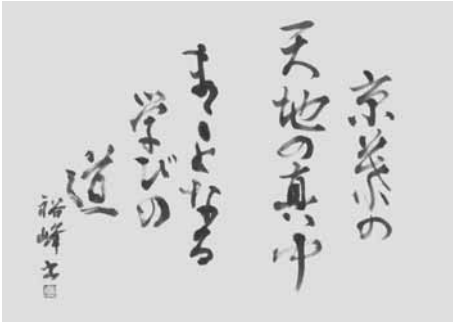
「時」

この度は審査会員にご推挙いただきありがとうございます。香川倫子先生、三森慧香先生、諸先生方のご指導と書友の皆様の支えでここまでこられましたことに感謝申し上げます。これからも健康に留意し「時」を大切に精進してまいります。

（春江）

令和5年度 新審査会員作品

齋賀 裕峰（現）・中島 藤邑（漢）・保原 美風（漢）・坂田 翠江（前）



齋賀 裕峰
（千葉）

「母校の校歌を胸に」

本物を見て学びなさい――京葉高校で飯高和子先生に出会い、30年以上ご指導を頂き今日の私があります。広く深い書道との出会いは私の人生の宝物です。〝書は心・継続は力なり〟の精神を実践し続けます。審査会員昇格に感謝し、今後の努力を誓います。今後共、ご指導賜りたく宜しくお願い申しあげます。（裕峰）

保原 美風
（大阪）

「能」

この度は審査会員にご推挙頂き有難うございます。

小林琴水先生、崎井恵風先生はじめ諸先生方と仲間に心より感謝申し上げます。以前能鑑賞した折の感激を、この「能」に表現できたらと願って書きましたが……。

亡き恩地春洋先生がいつも言われていた臨書に一層精進してまいります。（美風）

中島 藤邑
（千葉）

「澄心静慮」

余暇の過ごし方を考えていてふと目にした「もくせい書道会」。入会して10有余年。目の前のひとつひとつの課題に地道に取り組むことの大切さを教えて戴きました。半田藤扇先生はじめ諸先生方、又よき仲間のおかげと心より感謝申し上げます。このかけがえのない出会いを大切に精進したいと思います。（藤邑）

坂田 翠江
（宮城）

「夢」

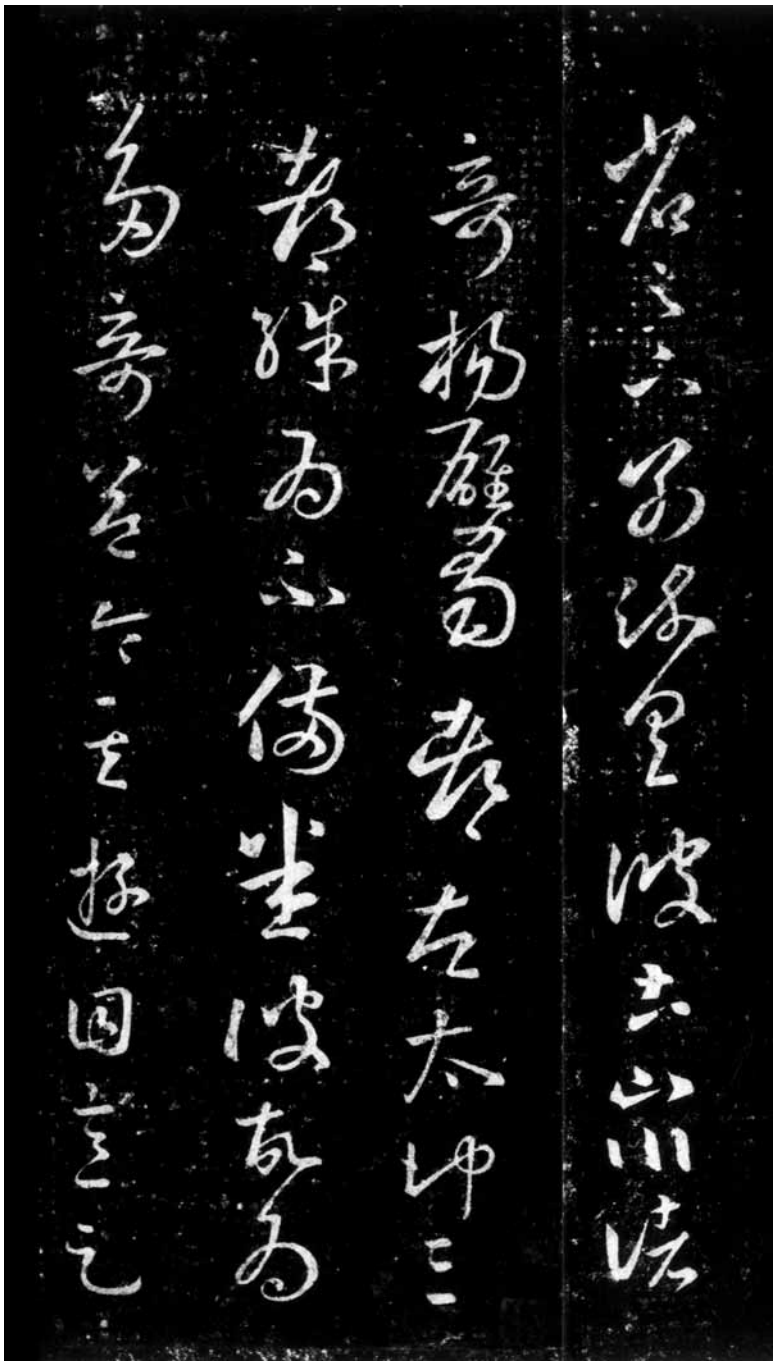
♫書道は続くよどこまでも、山あり谷あり乗り越えて、おごらずひるまず美の追究…♫テーマソングを作り、いつも楽しく書友と切磋琢磨しております。生きた線を求め、また自在に感情表現したいのですが、現実は苦労の連続です。嵯峨翔葉先生に感謝しながら、これを機になお一層精進して参ります。明日を夢見て！（翠江）

古典鑑賞 459

十七帖（じゅうしちじょう） ②

漢字研究部臨書課題 ＝（半紙普通判・縦使用）左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 ＝（A.大作の部―毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・金紙も可 B.小品の部―半切1/3以上半切以内・金紙1/2以内も可（A・B縦横自由））当該古典の左記掲載部分以外も可。



〈上野本〉

（京都国立博物館蔵）　（掲載図版・72%に縮小）

省足下別疏。具彼土山川諸／奇。楊雄蜀都。左太沖三／都。殊爲不備悉。彼故爲／多奇。益令其遊目意足

〈解説〉

今月の課題は13通目にあたる「蜀都帖（しょくと）」の冒頭4行分である。この帖の内容は周撫に対して、風光明媚な蜀の地を是非案内してほしいという依頼である。羲之の山水や神仙へのあこがれが文章の奥にひそんでいる。

力強い「省」字から始まり、4行目「奇」字まで実に堂々とした書き振りである。軽やかな動きを散りばめながら、要所での太い線が効果をあげている。臨書する際には穂先が紙面から離れないように特に留意して下さい。

〈注〉出品に際しては、上野本・三井本のどちらを臨書してもよい。（編集部）

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨（押印のみも可）

古筆鑑賞

㉝

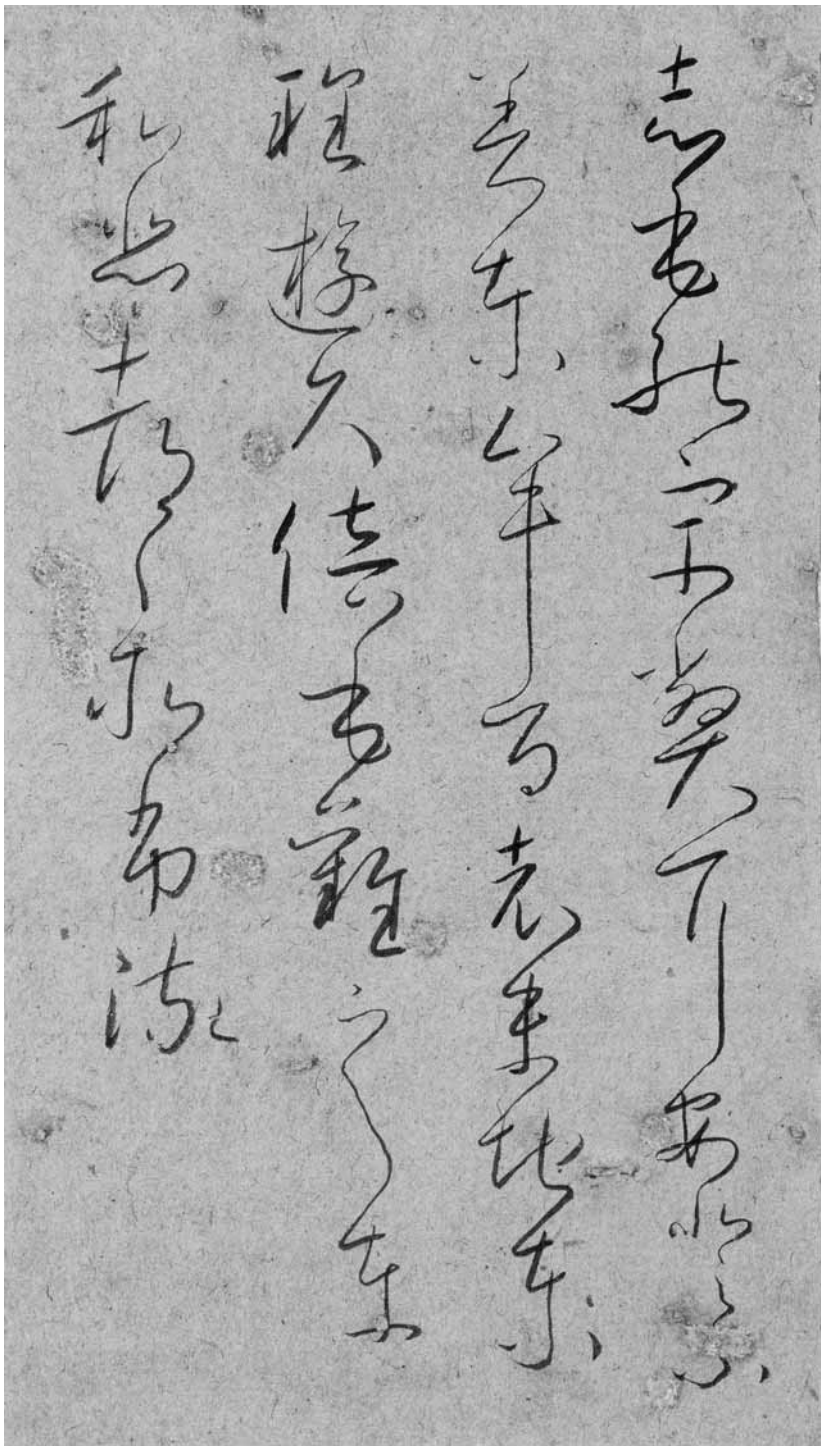
秋萩帖（あきはぎじょう）②

〈解説〉

15首目「霜の上に」が課題。先月号の書者とは別の人の手であり、時代も下がっている。高野切第三種の草がなの部分と雰囲気が似ていて、和様の典型と言っていいかもしれない。特徴としては、①筆がほぼ垂直に立っているため線が美しい ②スピードの変化とメリハリに乏しい ③連綿が長く続く部分は単調で不自然 ④元の字（字母）を正確に書いている などが挙げられる。

1行目最後の「ふ」は1画目が消えているので、補って臨書してください。

（編集部）



（東京国立博物館蔵）

※掲載図版・85％に縮小

〈よみ〉しものうへにあとふ／みとむるはまちど／りゆくへもなしと／わびつゝぞふる

志毛能宇閇耳安登不　美東牟留者末地東　理遊久倍毛難之東　和慈都　所布流

※古筆は原寸（以上も可）で臨書しましょう。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

かな研究部臨書課題	（半紙普通判（料紙可）・縦長に使用）別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全臨も可）
特別研究部臨書課題	A．大作の部＝毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可 B．小品の部＝半切⅓以上、半切以内（縦横自由） ＜いずれも上記の掲載以外も可。＞

漢字規定 初段以上【九月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

坂本素雪選書

松潭月色涼

よみ（松潭月色涼し）

書体＝自由

習い方解説 (五)

坂本素雪

松潭月色涼（新註墨場必携）

（松潭月色涼し）

松の生いしげった淵に月影がすずやかにさす。

今までとは少し変わった作風にした。

先月号の4文字から5文字にして、曩宝子碑のような書風（雰囲気）で書いてみることにした。重厚さは勿論、曩宝子の筆法まで行かないから、倣書とも言えないような創作である。

「松」木偏は大きくしないで密に、旁は少し上に上げる。

「潭」旁は画数が多いので慎重に運筆する。バランスを崩さないように。

「月」跳ねの部分は少し力を入れて。

「色」1画目を長くしてバランスを調整してみたが作風に合ったか心配だ。

「涼」下部を少し長めにして伸び伸びとした字形にする。

漢字規定 秀級以下【九月十五日締めきり】用紙 半紙普通判

大平邑峰選書

獨歩青天　よみ（青天に独歩す）

書体＝楷書

習い方解説 (五)

大平邑峰

獨歩青天（青天に独歩す）　（碧巌録）

何事にも束縛されることなく自分の道を歩むこと。

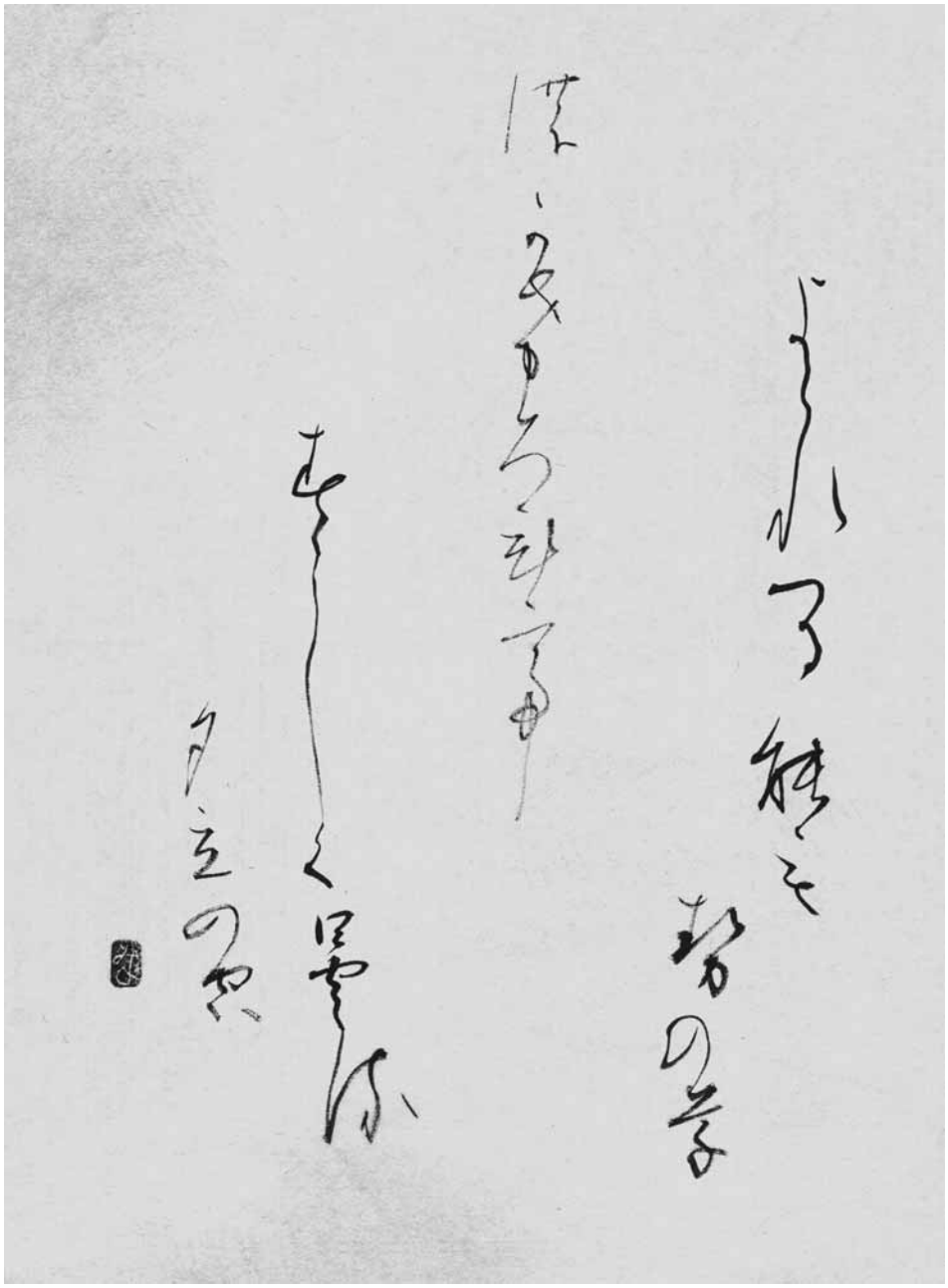
今回は、初唐の三大家のひとり、褚遂良の楷書「雁塔聖教序」を参考にして書くことにした。

褚の書には欧陽詢や虞世南、古くは王羲之などの影響があると言われている。それだけに雁塔聖教序は、好きな古典ではあるが、習ってみると難しい。細身でありながら流麗で強い線、行意のある筆の動きとそれらから醸し出される変化と緊張感、挑んでははじき返されるの繰り返しである。雁塔そのものだけではなく、その他の彼の書である「伊闕仏龕碑」、「孟法師碑」、「房玄齢碑」、「倪寛賛」を習うのも楽しいものである。

数年前、貫名菘翁最晩年の書「松居遊見叟碑」の碑稿4種を見る機会を得た。それぞれが古典を生かして書かれていて、創作とはこういうことかと驚嘆したものだ。

かな規定　初段以上【九月十五日締めきり】　用紙　半紙普通判（料紙可）

平川峰子選書



よみ方　よられつる野(能)も(毛)せ(勢)の草の(濃)か(可)げ(希)ろひ(飛)て(帝)
涼(春ゝ)しく(久)くも(曇)る(流)夕立の空

創作

習い方解説（二）

平川峰子

よられつる野もせの草のかげろひて
涼しくくもる夕立の空
（西行「新古今和歌集」）

「よられつる」は「撚られつる」で「強い日差しによじられた野原一面の草がかげりを帯びた瞬間、涼しく曇り始めた空が夕立とともにやってくるよ」の意。

かなの散らし書きは潤渇が大切な要素です。墨継ぎは「すずしく」で行い、それぞれ行の長さ、行間など余白も考慮して決めてください。

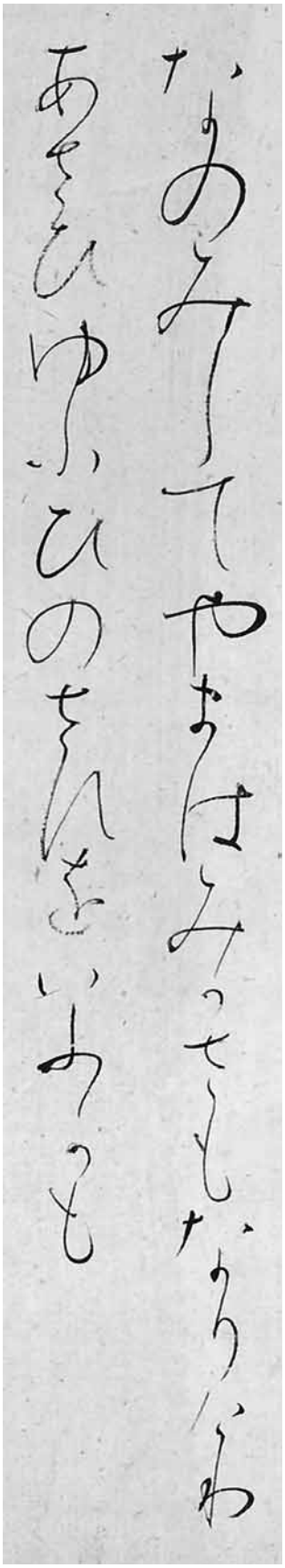
かな作品を美しく見せるために紙は重要です。加工された用紙を料紙とよびます。染紙、ぼかし、砂子、金銀箔など美しく優雅です。

今年G7サミットが開催された広島には厳島神社があり、そこに奉納されている平家納経は平清盛はじめ一族が1164年に納めた絢爛豪華で美を尽くした装飾経です。普段は田中親美（1875―1975）が精巧に再現したレプリカが公開されているようです。

＊料紙は半紙版（33.0×24.5㎝）を使用しましょう。

かな規定　秀級以下　【九月十五日締めきり】　用紙　半紙タテ1/2（料紙可）（たて32センチ・よこ12センチ）

掲載写真の和歌を臨書する。または部分（2字以上の連綿または単体を含む）を臨書する。



粘葉本和漢朗詠集
（掲載写真拡大120％）

よみ方　なのみしてやまはみか(可)さもなかりけ(介)り(利)／あさひゆふひのさす(須)をいふか(可)も
※脱字

〈注〉署名は「〇〇臨」として下さい。

習い方解説（二）

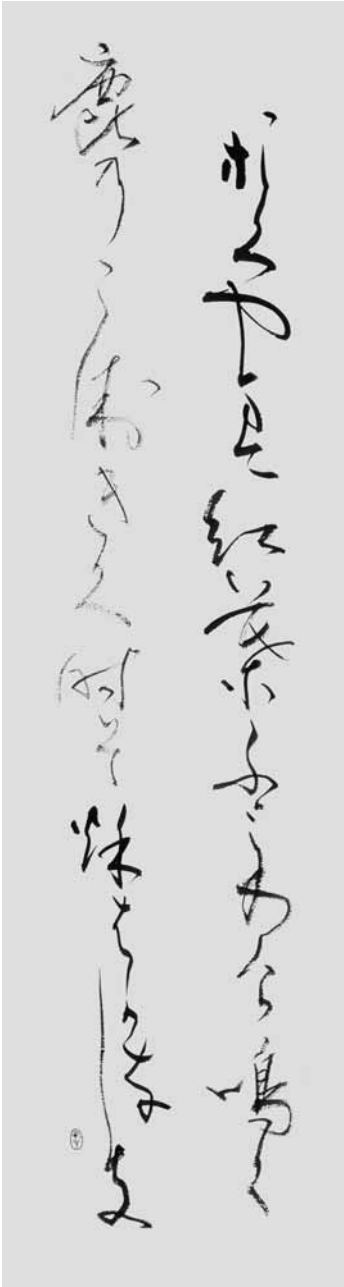
小島孝予

奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の
聲聞く時ぞ秋はかなしき
（読人しらず「古今和歌集」）

和歌2行書の変形です。1行目を13文字とし、天地余白をとりました。2行目は1行目より高い所から入り、隣り合う文字が並列にならないよう文字を選ぶことで、行の響き合いが生まれます。秋で墨量を調整しながら徐々に右へ流し、そこへ添うように行を変えてしきをおくことで、2行が1行にまとまり余白が生まれ引き締まります。

かな条幅規定【九月十五日締めきり】　用紙　小画仙紙半切（料紙可）

小島孝予選書



よみ方　奥山(於久や万)に(に)紅葉踏(ふ)み(み)分(わ)け(け)鳴く(く)鹿の(の)
聲(こ衛)聞(き)く(く)時ぞ秋は(者)か(可)な(奈)しき(支)

創作

※タテ形式に限る

漢字条幅規定　初段以上【九月十五日締めきり】用紙　小画仙紙半切

後藤大峰選書

半窗殘月露華冷　一片野風蓮蕚香（韋莊）
（半窓の残月露華冷やかに、一片の野風蓮蕚香し）

書体＝自由

習い方解説（五）

後藤大峰

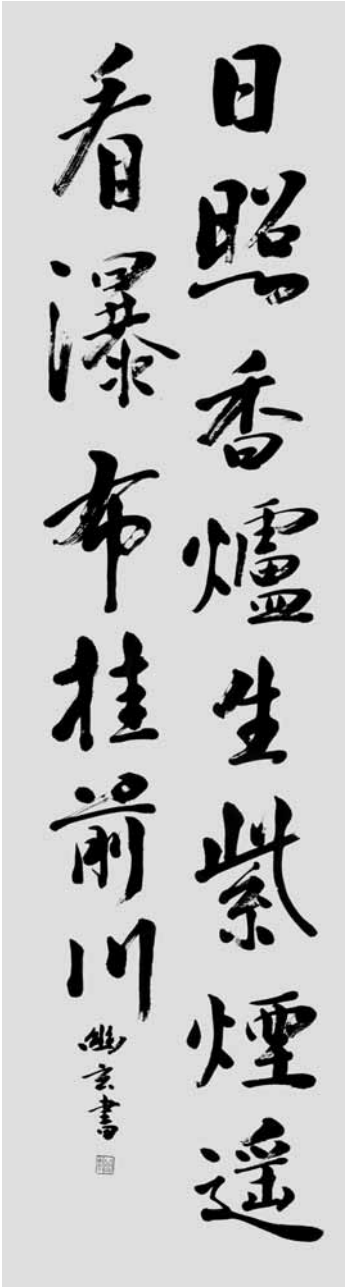
今回は前回の作品と異なり単体で1文字、1文字の形態を大切にし書き上げました。

この作品は清代の趙之謙の作品を参考にしました。一点一画をしっかり捉えてみて下さい。

形態も大切ですが、書線の力強さが今回の特徴です。ドッシリとした重厚感を表に出してみました。

※タテ形式に限る

漢字条幅規定　秀級以下【九月十五日締めきり】用紙　小画仙紙半切



高田幽玄選書

日照香爐生紫煙　遥看瀑布挂前川（李白）
（日は香炉を照らして紫煙を生ず　遥かに看る瀑布の前川に挂かるを）

書体＝自由

習い方解説（五）

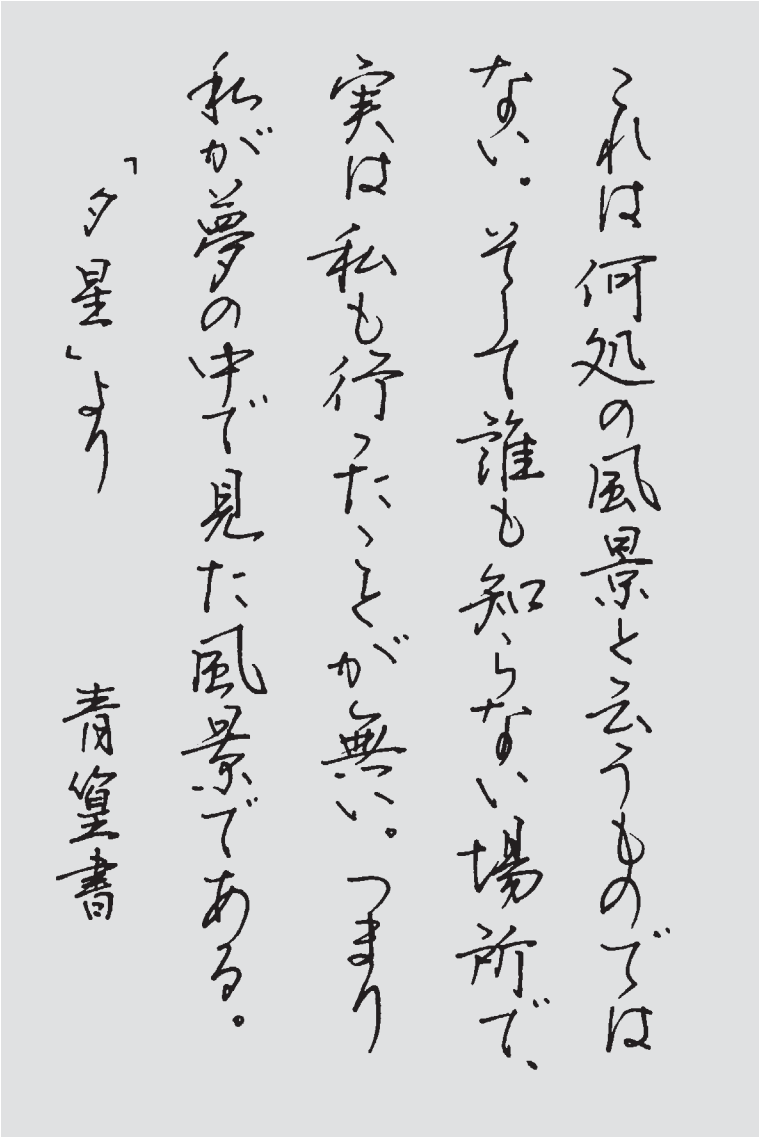
高田幽玄

日の光が香爐峰を照らし、紫色の霞がかかっている。遥か向こうの川に滝が見える。李白の七言絶句「望廬山瀑布」の前半の2句。

含墨は1字目、6字目、11字目あたりを目安に。字の中心を貫通させ、行を立てます。1行目と2行目の字が並ばないように注意。連綿はありませんが、最終画と次の字の1画目を続けて書いてみるのもひとつの方法です。

ペン字規定【九月十五日締めきり】

東福青篁選書



◇用紙　ハガキ大（14.8×10㎝）の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用（ボールペン・フエルトペン可）

書体＝自由

ご注意!!

用紙の大きさにばらつきが見られます。
用紙サイズ（ハガキ大14.8×10㎝）を守って下さい。

習い方解説（五）

東福青篁

漢字とかなの調和を心がけながら、紙面への字配り・気脈の貫通に配慮して、流れのある表現としてみました。

運筆の呼吸や字形の整え方などは、ペン字も毛筆と同様、書の古典臨書から基礎を学習し身につけましょう。流れを大切にして、気持ちよくペンの弾力を感じながら、リズムの美しい表現を目指したいですね。

今月は東山魁夷画伯の最後の心象風景として描かれた絶作〈夕星〉とともに書き残されている文章の一節と致しました。

これは何処の風景と云うものではない。そして誰も知らない場所で、実は私も行ったことが無い。つまり私が夢の中で見た風景である。
「夕星」より　○○書

実用書【九月十五日締めきり】

会場　受付　来賓　団体／順路　出口　会社　部長（それぞれ楷書・行書の順で書く）

会場受付来賓団体
会場受付来賓団体
順路出口会社部長
順路出口会社部長

大平邑峰

大平邑峰書

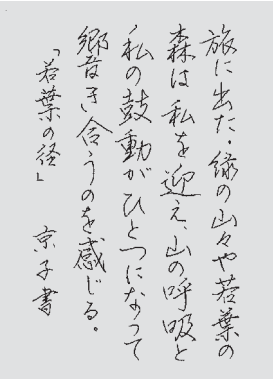
書体＝自由

（掲載手本原寸）

◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用　署名は各自の名前（号）を
◇用紙は普通版半紙横½（24.5×16.5㎝）　B５版コピー用紙（26.0×18.1㎝）も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る

今月のホープ作品各部総評 NO.746

ペン字部　師範　河原木京子
天地左右の余白が絶妙。大胆な漢字かなのデフォルメによって、流麗さと躍動感あふれる作となった。
◎ペン字部総評　流れのある安定した作品が多かった。行書体は自己流にならないよう、手本や字書を観る習慣が大事です。（孝予評）



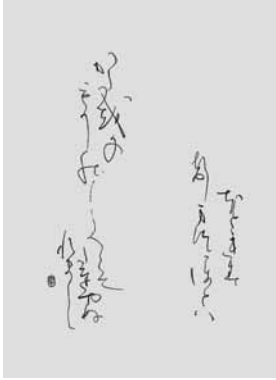
漢字条幅部　師範　佐野　友保
篆書のもつ韻致の高さが遺憾なく発揮されている。暢達した線に清潔感があり落ち着いた作に仕上がる。
◎漢字条幅部総評　今回は隷書作品が多かった。線の錬度もさることながら、安定感（字形、運筆とも）に欠けた作が散見。（石雲評）

前衛書部　特選　下田加代子
奇抜な造形と穏やかな淡墨の重なりが見事に調和された作品です。この流れの拡大発展に期待。
◎前衛書部総評　作品の良化を感じるもあえて、書き過ぎの作品多く線の整理を願う。（慧香評）

現代詩文書部　特選　丹　美枝
インパクトのある吉永小百合の言葉で作品効果を考慮した運筆が伸びやかで明快な作。
◎現代詩文書部総評　各人各様の素材を大切にし作品制作にあたって下さい。（掃雪評）

かな条幅部　師範　齋藤　杏邑
気持のこもった美しい線が、白い紙に映えて見事。余白の構成も巧妙で錬度の高い逸品です。
◎かな条幅部総評　墨色の変化に乏しい作品を散見、潤渇による景色の美しさも一考されたい。（初美評）

かな部　師範　池田　幸子
伸びやかに自然に運び、美しいかなの流れに安らぐ。線の太細や潤渇も的確で、基本を得て見事！
◎かな部総評　難しい変体がなはなかったと思いますが、〃遅（ち）〃の誤り散見。〃岡（をか）〃のかな遣いにも注意したい。料紙に濃墨は不可。（洋子評）



漢字部　師範　新井　春麗
筆が軽やかに動き、上質で柔和な線が美しい優雅な草書。落款の書風も一貫し、見事に調和した。
◎漢字部総評　上級は草書作品が多く見られたが、線質の良否に差が出る。又、落款の書体、書風の調和に力量の差が見えた。（萬城評）

実用書優秀作品

選評　岩垣若翠

長雨　麦秋　福岡県　大分県
長雨　麦秋　福岡県　大分県
梅雨入りとなり蒸し暑い日々が続きます
梅雨入りとなり蒸し暑い日々が続きます
竹浪叙舟

特選　竹浪叙舟

結体を広く構え、穏やかで温かな作。大らかな運筆が魅力。

長雨　麦秋　福岡県　大分県
長雨　麦秋　福岡県　大分県
梅雨入りとなり蒸し暑い日々が続きます
梅雨入りとなり蒸し暑い日々が続きます
工藤山房

特選　工藤山房

字形整い、鋒先を効かせ軽妙で明るく爽やかな秀作。

◎実用書部総評

錬度の高さがうかがえる作が多く、感服いたしました。文字に大小・太さの変化をつけ、行の中心と流れを生かしてください。（若翠評）

特選

千葉　竹浪叙舟
若葉　工藤山房
深大　多胡三千代
AI　堀江幸泉
竹清　汀琴

秀作（60音順）

春汀　上利啓子
洞書　安藤楊風
八街　井ノ口春峰
及川明美
落合敏苑
秀苑
清月　小林嘉江
大雲　鷺山美梢
もく　西川藤象
幸扇　山本梅香
楓会　吉田裕

佳作（60音順）

紅瑤　藍澤白珠
竹美　秋龍華
田無　飯塚郁子
一新　石蔵京華
誠和　石崎甘雨
高真　岩上郁子
生大　太田良子

四枝　奥川麗流
大雲　奥村美楓
ここ　加藤翠陽
こだ　北爪美和
水茎　清水蘭舟
佑朋　水津恵風
八街　松山峰生
蓮紅　八重樫祐香

入選（60音順）

もく　青木藤蓮
亀松　池田直子
氷壑　伊澤香雨
静翠　井上智美
土気　臼井綾乃
澄春　大岩幸子
深大　久下香奈
蒼陽　熊井宏子
紅瑤　栗原りか
梓江　佐藤祥扇
華仙　篠塚謙心
祥華　佐藤トモ子
士気　杉田祥風
伊呂　鈴木英晴
紅瑤　須田香舟
八街　仙北屋峰雪
水茎　高岡秀汀
華祥　高木昭華

有秋　高橋千代子
有秋　武山花源
江龍　鶴見嘉美
書泉　都丸花凪
中島　藤邑
上泉　中村シゲ子
もく　中村高子
幸扇　野村奈々
土気　波多野早紀
大雲　林美奈子
琇韻　原島春汀
紅瑤　比田琴清
大阪　本間冨士子
若葉　松丸愛石
石習　松村陽子
白露　皆川節子
夕波　宮内典子
正華　矢部香苑
明香　竹美蘭舟
昆陽　米倉和枝
梓江　渡辺菖月
大雲　渡辺妙華
（選外427名氏名略）

現代詩文書部（特選）

選評　山崎掃雪

千恵子　気力あふれる1行目に感服
喜代美　優しい淡墨に感性光る
桃翠　存在感ある線と句意深い
渓翠　筆力潤渇ある構成冴える
郁子　線の大小・太細空間輝く
杏邑　中央の運筆オーラあり
真由美　詩情あふれる淡墨魅力的
泰香　「蝶の」空間に響く
青霞　白の中の黒迫力すごい
甘雨　デフォルメされた線見事
清耀　練達した運筆美しい余白
四夏　細くて強い線が風趣あり
景燁　「遠」が作品をよく表現
美梢　句意と作品洒脱な趣
紀子　潤渇が冴え穏やか美しい
邑里　細線の美しさ響き効果的
雅悠　多様な線を駆使印象的
光琴　細やかな味わいある作品
春子　沈着した深い線魅力的
紅霞　「軽し」一際存在感有り

前衛書部（特選）

選評　三森慧香

紫千　曲直の細線で心理が緊張
久子　余白に力点を置く婉曲性
浩美　飛沫が跳梁感を創出した
敦子　乱れとの作為的調和が秀
白鷺　淡墨で異質な状況を両立
葵龍　左右の呼応が絶妙、秀作
光燁　詩劇性に訴えた観に共鳴
珠莉　多種の造形自然体に整合
雅悠　朦朧性タップリ墨色も秀
咏艸　深山幽谷に墨色も効果的

今月の

特別研究部優秀作品（特選）

選評　下谷洋子　小竹石雲　後藤大峰　倉林紅瑤

小品の部

前衛書（月華）
浅野 日向子
「昇」

浅野 日向子 書

136×35㎝

◆若さあふれるエネルギッシュな運筆がスケールの大きな世界を生み出している。気迫に満ちた表現作となった。（紅瑤評）

現代詩文書（四枝）
奥川麗流
「実篤の詩」

奥川麗流 書

126×35㎝

◆重厚な線をもって紙面を攻め、紙背まで籠もった墨魂が輝きをみせた作で空間への響きも心地よい。（石雲評）

臨書（大雲）
佐藤希雲
「風信帖」

佐藤希雲 臨

135×35㎝

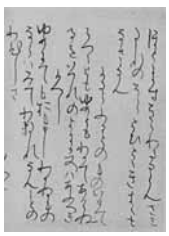
◆風信帖、5文字の臨書。少し荒っぽさがあるが、堂々とした書き振りで雰囲気は良い。（大峰評）

臨書（上泉）早部　朗「中務集」

早部　朗 臨

35×135㎝

部分拡大



◆中務の切れ味をソフトに転化し、奥深さを感じる線の流れが魅力。転折の強弱も見事に表現した力作。（洋子評）

〈小品の部〉

創作の部（36点）
漢字―10点
かな―3点
現代―12点
篆刻―1点
前衛―10点
臨書の部（49点）
漢字―47点
かな―2点

総出品点数 85点

〈特選候補者〉

（創作の部）

「漢字」
水茎　中野 柳明
麗澤　富田 瑶翠

「かな」
潮音　齋藤 杏邑

「現代詩」
大雲　阿部 恵泉
もく　西川 藤象

「前衛」
紅瑤　松本 秀皐
秀水　坂井 初江

（臨書の部）

「漢字」
紅瑤　原島 春汀
華祥　加藤 雅芳
八街　大日向 幽香
澄春　土屋 恵仙
もく　青木 藤漣
京橋　前浜 裕香
千葉　竹浪 叙舟
土気　杉田 祥風
素雪　坂本 芳博
もく　岡部 藤瓊
天満　田畑 明琴

大作の部

前衛書（篤信）　三浦朱鳳「夕焼け」

三浦朱鳳書

145×60㎝

◆上部の重量感ある表現がインパクトを与え、下部へと展開する。紙面にスケールの大きさと豪快さが漲っている。（紅瑤評）

部分拡大

現代詩文書（宗苑）　臼井真理「神戸の女が小樽へ」

臼井真理書

180×45㎝

◆楽々と運筆された筆鋒に詩情をのせて詞いあげた筆者の心情に魅了され、心の広がりが感じられる。（石雲評）

臨書（千葉）　猪又理扇「風信帖」

猪又理扇臨

28×170㎝

◆風信帖を各文字、確実に捉えて臨書されている、労作。惜しむらくは幾分咀嚼不足の部分が、ややあり。（大峰評）

臨書（千葉）　平野笛舟「中務集」

部分拡大

平野笛舟臨

60×210㎝

◆前半少々墨が薄いが、中務の呼吸をよくつかんで自分のものとし、形臨に終わらない線情の流れを出した。（洋子評）

〈大作の部〉

創作の部（38点）
漢字―2点
かな―7点
現代―10点
前衛―19点
臨書の部（14点）
漢字―12点
かな―2点

総出品点数52点

〈特選候補者〉

（創作の部）
「漢字」
秀恵　阿部　雅悠
「かな」
伊呂　鈴木　英晴
水茎　清水　蘭舟
「現代詩」
もく　森田　藤谷
蒼風　笹木　蒼風
大雲　奥村　美楓
「前衛」
蓮紅　大友　紅蓉
一弦　工藤　和香
紅瑤　佐藤　成美
青蓮　伊藤　有津
大拙　大庭　幸石
松風　西條　松雲
容洲　阿部　邑里

（臨書の部）
「漢字」
大雲　江本　興舟
紅瑤　木暮　千晶
玄象　鎚　匡子
紅瑤　相澤　敦子

漢字研究部
（風信帖）

選評　稲垣小燕

今月のホープ作品

坂本芳博

漢字研究部　特選　坂本芳博

三通目の特徴である軽やかなリズム感をよく捉え、原帖と深く対峙して学んでいることが窺える爽やかな秀作です。より一層真摯な姿勢で臨書することを心がけていかれることを願っています。

◎漢字研究部総評

3回にわたり空海の「風信帖」「忽披帖」「忽恵帖」を学んできました。同じ筆者（空海）が同じ相手（最澄）に宛てたものであっても、その内容、心情によってあきらかに字体、線質が異なることを学びました。

そこから、伝えようと思う内容によって書の表現方法が違うことを知り、ひいてはこの度の「風信帖」三通を臨書したことは、我々が作品制作に当たった時の良き教示になったと思います。

雅泉　蒼睦　葵照　玲右　理美　麗美　泰き潤　春香　香子　恵桂　英綾　晴千　奈華　子秀　子谷　龍月　風柳　梢美　扇子　芳紬　舟霞　麗香　春青

かな研究部
（中務集）

選評　福田令子

今月のホープ作品

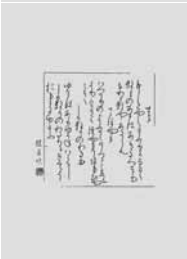
新井惠子

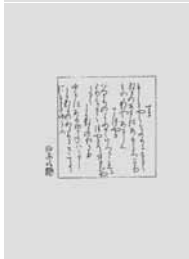
かな研究部　特選　新井惠子

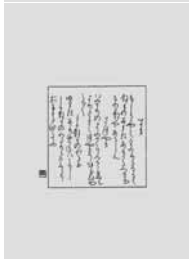
シンプルな中にも、力強さが感じられ、筆圧の変化も見事である。リズム感もあり、切れのある筆致が美しい。

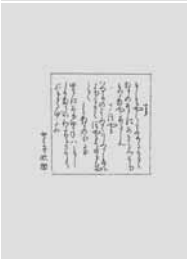
◎かな研究部総評

墨量が多い作品、または潤渇の変化のない作品が多くみられた。また、押印する場合は、作品に相応しい大きさの印を使用して欲しい。









悦子　桃代　トミ

香代　嘉舟　信

伯朗　美加子

美代子　友里　和美絵

かな研究部成績表

特選

菊月　◎新井惠子
書泉　七五三木和美
高崎風　松村　紅雲　大崎友里絵
小峰美代子　船津美加子
永井　早部　小林　上嘉　清江　恵朗　紅泉　須田舟　渡橋　森谷　菊島　片桐　飯島トミ子　佐藤　玉川真　高尾　上泉真　高泉　上華　塚本泉　柳瀬　矢口　粕谷　松江　佐有子　島希子　綾奈　月真　月泉　地泉　瑤月　澄春　たくか　高崎　た泉　二通　猿渡　西川　岩崎　植田　北爪　石川　石田　知津子　悦子　ハ街　わか鼎　蘭市　堺サ　正華　ここ　金田　加藤　井ノ口　伊藤　市川　石田　知津子　真翠　こだ　正華　八

漢字条幅部

第一種　◇創作（行書または楷書どちらか1枚）

長夜照沙磧（長夜沙磧を照らす）

（袁宏道）

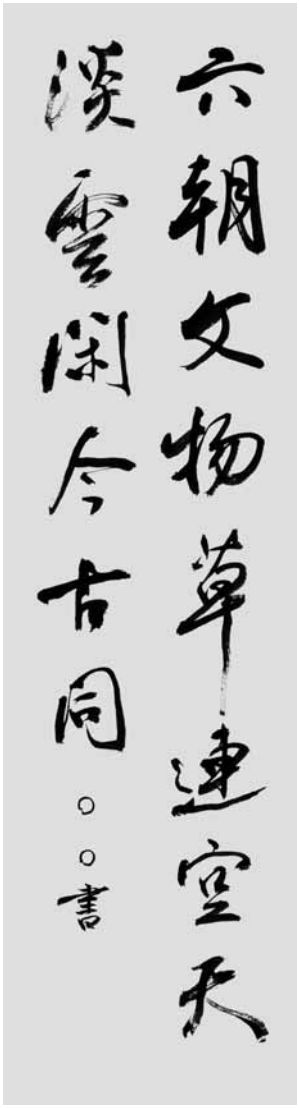
＜楷書＞

＜行書＞

長夜照沙磧（長夜沙磧を照らす）

（袁宏道）

第二種　◇楷書・行書　計2枚



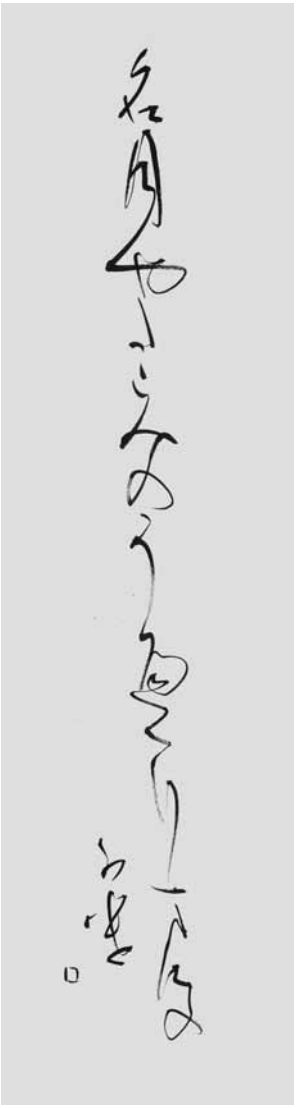
六朝文物草連空　天淡雲閑今古同

（杜牧）

（六朝の文物草空に連なる。天淡く雲閑かにして今古同じ）

かな条幅部

第一種　◇創作



名月や畳の上に松の影

よみ方　名月や畳（多〻み）の上（う遍）に（耳）松（万徒）の影（可遣）

（榎本其角）

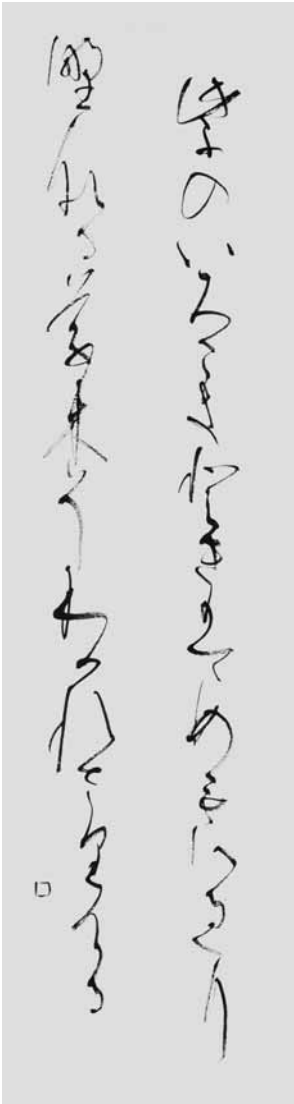
かな条幅部

第二種　◇創作

よもすがら秋風聞くやうらの山　（河合曽良）

よみ方　よも(毛)すが(可)ら秋風聞(き)く(久)やう(有)ら(羅)の山

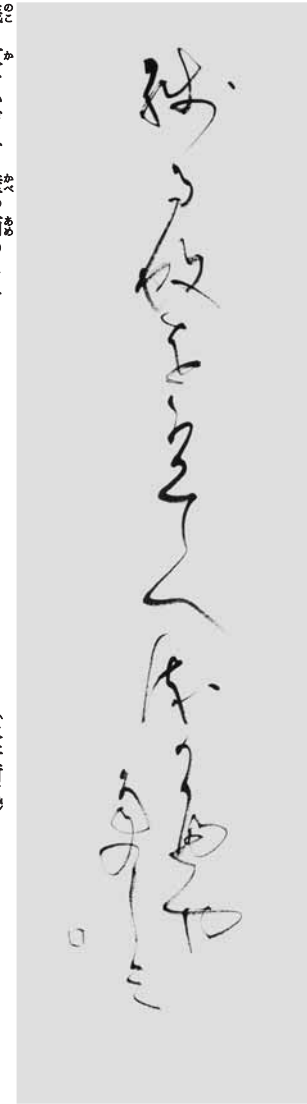
◇創作



紫の色こき時はめもはるに野なる草木ぞ分かれざりける　（在原業平）

よみ方　紫の色(いろ)こき(支)時(登き)は(盤)めも(毛)は(八)るに(耳)野な(那)る草木ぞ(曽)分(わ)か(可)れざり(里)け(介)る

第三種　◇創作



残る蚊をかぞへる壁や雨のしみ　（永井荷風）

よみ方　残る蚊をか(可)ぞへる(流)壁(可遍)や雨のしみ(三)

◇創作（和歌）

ちはやぶる賀茂のやしろの姫小松よろづ世ふとも色はかはらじ　（藤原敏行）

よみ方　ち(遅)は(八)やぶる賀茂のやしろ(路)の(能)姫(日免)小松よ(与)ろ(婁)づ(徒)世ふ(不)と(登)も(毛)色は(八)か(可)は(者)らじ

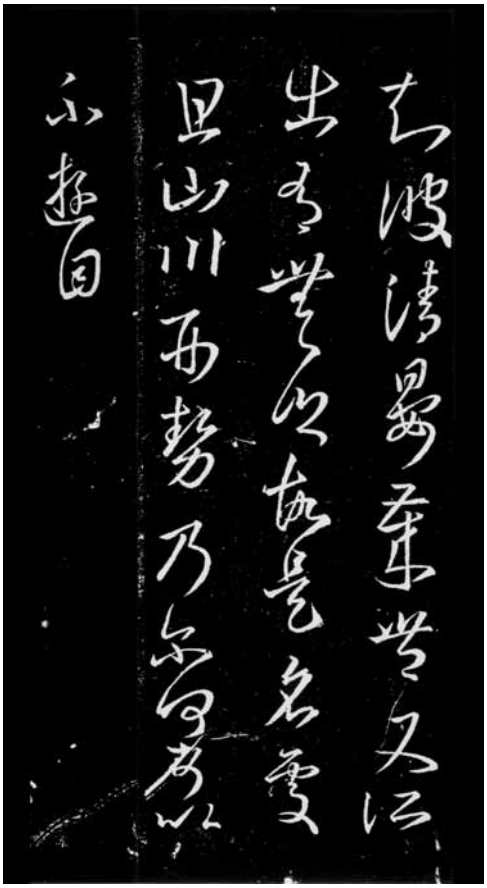
※漢字部・かな部・ペン字部の参考手本は7月号に掲載しました。

予告

2023・9月号(749)の「古典鑑賞」・「古筆鑑賞」の課題（10月15日締切）

古典鑑賞

460 十七帖（じゅうしちじょう） ③



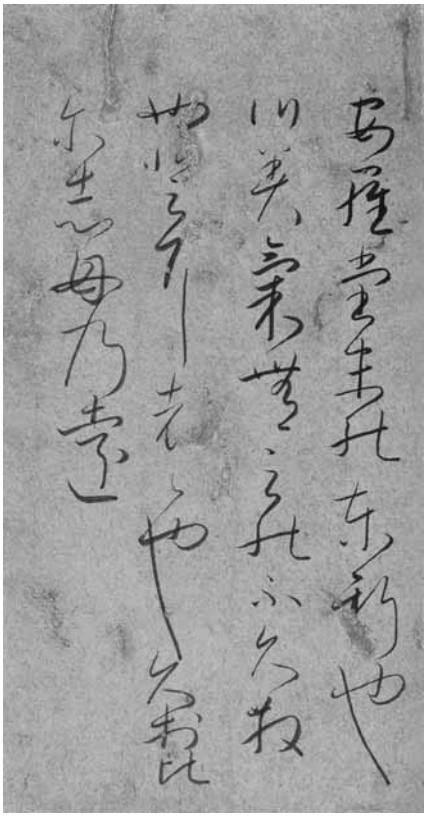
知彼清晏歳豐。又所／出有無乏。故是名處。／且山川形勢乃爾。何可以／不遊目。

（三井本）

（三井記念美術館蔵）　（掲載図版・45%に縮小）

古筆鑑賞

234 秋萩帖（あきはぎじょう） ③



〈よみ〉安羅堂末能東斬也川美氣無之能不久散也登耳者也久於比あらたまのとしや／つみけむしのぶぐさ／やどにはゝやくおひ／尓志母乃遠にしものを

（東京国立博物館蔵）　（掲載図版・45%に縮小）

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和五年七月二十五日　印刷
令和五年八月一日　発行
（毎月一回一日発行）　書道芸術　第七四八号

●篆刻
【九月十五日締めきり】

〈出品規定〉

①摹刻　㋐課題による語句
　　㋑原印自由
　　（出品の際、原印のコピー添付）
②創作　語句自由

○印面の大きさは2.3㎝（八分角）以内とし朱文、白文自由。
○印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
○創作、摹刻とも応募は一人一点。

8月号　摹刻課題

〈原印コピー〉

呉讓之

「眞然」

◉出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の釈文を明記、並びに落款（氏号）を入れる。

746号篆刻優秀作品

選評　後藤大峰

＜特　選＞

摹刻

「安雅」

特選　加藤万丈
真摯さのある作で好感。運刀も確実で、大変、しっかりした作品。

創作

「蛙吠」

特選　伊藤祥花
構成の妙が、この作品の佳さ。印面下部の余白の朱が絶妙である。

◎篆刻部総評

今回は新たに応募された方もいて新鮮な作品が散見されました。中には、もう一息の感のある作品もあり、さらに、ご精進下さい。

（大峰評）

（摹刻）

特選　新栄　加藤　万丈

秀作（50音順）
大雲　小沢　華仙
芳琴　小野寺幸喜
大網　片岡　豪峰
遊雲　中川　研治

佳作（50音順）
大雲　鷺山　美梢
木の　櫻井　恵華
蒼原　庄司　櫻空
白琉　平塚　由香

入選（50音順）
丸山　加藤　妙子
生大　吉原　進
（選外なし）

（創作）

特選　石心　伊藤　祥花

秀作（50音順）
唯一　逢沢
石心　大沼
慈空　覚山　樵峰　唯一
やま　橋本　坂本
清麗

佳作（50音順）
水茎　高岡
書泉　都丸　秀汀
生大　中畠　花凪
粋仙　藤井　義則　龍仙

入選（50音順）
遊雲　赤星　文庵
水墨　荒川　空華
趙雲　吉田　伊澤　香雨
恵弦
（選外なし）

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
〒101-0031
東京都千代田区
東神田一―一六―七
東神田プラザビル三階
公益財団法人 書道芸術院
電話（〇三）三八六二―一九五四
FAX（〇三）三八六二―一九五七

ご連絡等は月曜日～金曜日 10時～16時 の間にお願いいたします。（土・日・祝日は休み）

送料

一か月の購読部数が1部～9部までの一回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は送料免除

令和五年七月二十五日印刷
令和五年八月一日発行
定価　一部　七五〇円
編集兼発行人　下谷洋子
データ処理　株式会社リンクス
印刷　小沢写真印刷株式会社
発行所　公益財団法人 書道芸術院
〒101-0031
東京都千代田区東神田一―一六―七
東神田プラザビル三階
電話（〇三）三八六二―一九五四
FAX（〇三）三八六二―一九五七
振替　〇〇一五〇―四―一三五〇五八
ホームページアドレス　http://www.lincs.co.jp/shogei/